

令和6年度 愛宕小学校学力向上プラン ～チーム愛宕（全職員で）一人も取り残さず子供を伸ばす～

【教育目標】あたたかく たくましい心と体を持ち 互いに学び合う児童の育成 ～よく学び よく遊び～

【合言葉】共に楽しみ現在（いま）共に創る未来～褒め・励まして育てよう～

【めざす児童像】○あたたかい心をもつ優しい子 ○たくましく生きる元気な子 ○互いに学び合う賢い子

【めざす職員像】○子供と共に学び、共に汗を流す教職員（本校の強み） ○人間性が豊かで信頼される教職員（誠実） ○常に課題意識を持ち、学び続ける教職員（研修）○心身ともに健康で協力し合う教職員（働き方改革）

【めざす学校像】○子供が行きたい楽しい学校 ○保護者が安心して通わせたい学校 ○地域が応援したい自慢したい学校 ○職員の意欲があふれる働きがいのある学校

【学力調査の結果】

※3・4年生は市の平均、5・6年生は県の平均と比較し、5ポイント以上の差について、有意差（高い・低い）があると判断

3 年		4 年		5 年		6 年	
国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数
やや低い	低い	やや高い	やや高い	やや高い	やや高い	やや高い	高い

【確かな学力におけるめざす児童の姿】

「分かった」「できるようになりたい」という思いを持ち、積極的に聞いたり自分の考えを伝えたりし、すすんで学びに向かう児童

【本校児童の課題】

- 学力調査において、記述の問題の正答率の向上が見られる。書くことに対して主体的に取り組む姿がある。
- 「聴き合い」から自分の考えを広めたり、深めたりすることができる。
- ・情報と情報の関係を理解したり、結び付けて考えたりすることが苦手。
- ・家庭学習の取組に個人差がある。
- ・個別に支援を要する児童が多い。

【子供の伸ばすための視点】※数値化（赤）

視 点	具 体 的 な 取 組	視 点	具 体 的 な 取 組
1 授業改善	一人も取り残さず、すべての児童が学習の主体者となる授業改善を目指す校内研修 主題：「児童一人ひとりが学習の主体者になる授業改善を目指して～問題解決学習における聴き合いを通して～」 【視点1】協同を必要とする問題についての研究（愛合課題） 【視点2】問題解決学習における学び合いの効果的な位置づけと形態の選択（聴き合い） 【視点3】学んだことを自分の中に再構築するための「振り返り」の研究 研究の柱：①「聴き合う関係」づくり ②「愛合課題」の設定の工夫 ③振り返りの充実 ○全体授業・部会授業における 全員授業 ○ICTを活用する授業 ○わかる喜びが実感できる授業（R5 児童による学校評価92%）	4 基礎基本の徹底	○読書の充実を図る→図書室の活用、学校司書との連携 →年間低学年100冊、中学年80冊、高学年60冊を目標とする。 ○デジタマ・キュービナの活用（週1回以上） ○愛（I）チャレンジの実施（週1回以上）
		5 特別支援教育の視点	○交流学級担任と特別支援学級担任との連携の強化（1日1回児童の情報交換） ○幼稚園・保育園・中学校との連携、スクールカウンセラーなどの関係機関との連携の強化 ○個別の支援計画と指導計画の作成 ○コグトレの実施（週1回以上）
2 学習規律の徹底	○学習規律における掲示物（ハンドサインによる発表の仕方・振り返り（わがとも）） ○学習用具のチェック表（ 学期ごとのチェックで3月までに95%そろようようにする。 ） ○愛宕スタンダード（学習規律）の徹底（学び方の基礎・基本） ○ノートの書き方をそろえる。	6 地域・家庭との連携	○保護者との情報共有の充実 ○家庭と連携した「生活リズムチェックシート」の取組（各学期1回） ○家庭学習の手引き作成・配布（ R5 保護者による学校評価74% ） ○家庭、地域と連携→大人絵がかりでの児童の健全育成（パワーアップ教室・にこにこ教室）
3 学級経営	○日常的な「いのちの教育」、実践の積み重ねによる互いに認め合うことができる「支持的風土」がある学級づくり（道徳科の充実と道徳的実践力の育成） ○児童に自尊感情・自己肯定感や達成感を味わわせる取組と称賛 ○心の天気アンケート実施。必要な児童に対しての個人面談（ 月1回 ）	7 生活指導	○5つのあ「あいさつ・あそび・あるきかた・ありがとう・あとかたづけ」の指導の継続・徹底（ 毎月の生活の目標設定 ） ○あはは運動の浸透

※各学年の学力向上における課題、取組は別紙